

精油の使用法の一部見直しについて

アロマセラピーが日本に紹介されて30年以上が経ち、

AEAJもこの4月で設立24年を迎えます。

たくさんの方に親しまれ、今や3500億円^{*}を超える規模に成長したアロマセラピー市場ですが、
すそ野の広がりとともにさまざまな使い方の情報があふれるようになりました。

そのような状況も背景に、AEAJでは、アロマセラピーの学術研究やエビデンス収集、
法令を遵守した正しい使用方法の啓発などに力を入れてきましたが、この度、
より安全なアロマセラピーを推進するため、精油の使用法の一部を見直すことといたしました。

見直しにあたっては、約1700名の会員の皆さまにご協力いただいた実態調査をはじめ、
有識者の方々との協議、アロマサイエンス研究所での検証実験など多方面からの検討を行いました。

2020年4月以降、新しい使用法のもと、活動を行ってまいります。

また、『アロマセラピー検定 公式テキスト 1級・2級』『アロマセラピー検定 公式問題集』は、
今回の変更点を反映した改訂版を2020年6月1日に発行予定です。

アロマセラピーの健全な発展のため、

AEAJ会員の皆さまにはぜひご理解いただき、

新たな使用法の実践と普及啓発にご協力いただけますよう、よろしくお願いいたします。

※AEAJ「2018年アロマ市場に関する調査レポート」より

使用法の変更点(概要)

	変更前	変更後	理由
沐浴法	精油原液を浴槽または洗面器などの湯に直接入れる	5ml程度の無水エタノールに混ぜた精油を、浴槽または洗面器などの湯に入れる	精油は水に溶けにくい 今回、無水エタノールに混ぜてからであれば、水に入れても分離しないことを検証済み <small>※テルペン類の含有量が多い精油など、一部例外あり</small>
入浴剤	精油原液を天然塩や重曹に混ぜ、浴槽に入れる	5ml程度の無水エタノールに混ぜた精油を、天然塩や重曹にスプレーなどで吹きかけ、すぐに浴槽に入れる	沐浴法同様 時間が経つと無水エタノールが揮発して精油原液のみが残る場合があるため、作成後すぐに使用する
手作りコスメ	水性基材に精油を加える際、エタノールまたはグリセリンに精油を溶かして混ぜ合わせる	水性基材に精油を加える際は、無水エタノールに混ぜた精油を加える	グリセリンに溶けない精油があることが確認されたため
パッチテスト	肌に精油を使用する際は、事前にパッチテストを行う	肌に精油を使用する際は、低い濃度で試してから使う	医療機関で行うパッチテストを個人で再現するのは現実的でないため また、長時間精油が肌に接触することで、アレルギーなどを引き起こす可能性もあるため

NEXT >>>

精油にまつわる実験を紹介する新連載がスタート!

「ウォッカに精油は溶けるのか?」「手作りコスメは何日でカビが生えるのか?」といったアロマセラピーの小さな疑問を実験で楽しく検証する新連載が
機関誌『AEAJ』No.96(6月末発行)より始まります。
どうぞお楽しみに。

